

薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学 第4版 訂正表

(平成30年3月31日第4版発行分)

p.129 表3.12を以下に差し替える

表3.12 主な消毒薬の用途と各種微生物に対する効果

環境	金属器具	器具 非金属	皮膚 手指	粘膜	排泄物	消毒力	消毒薬	一般細菌	緑膿菌	真菌 ^{*1}	結核菌	芽胞	ウイルス		
													エンベロープ		B型肝炎
													無	有	
高水準	×	○	○	×	×	△	グルタルアルデヒド	○	○	○	○	○	○	○	○
	×	○	○	×	×	△	o-フタルアルデヒド	○	○	○	○	△	○	○	○
	×	○	○	×	×	△	過酢酸	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	×	○	×	×	○	次亜塩素酸ナトリウム	○	○	○	△	△	○	○	○
	×	×	×	○	○	×	ポビドンヨード	○	○	○	○	△	○	○	△
	○	○	○	○	×	×	消毒用エタノール	○	○	○	○	×	△	○	×
	△	△	△	△	△	×	クレゾール石けん ^{*2}	○	○	△	○	×	×	△	×
	○	○	○	○	○	△	両性界面活性剤	○	△	△	○	×	×	△	×
	○	○	○	○	○	△	第四級アンモニウム塩	○	△	△	×	×	×	△	×
低水準	○	○	○	○	×	×	クロルヘキシジン	○	△	△	×	×	×	△	×

○：使用可能、△：注意して使用、×：使用不可

*¹ 糸状菌を含まない、*² 排水規制あり

○：有効、△：効果が得られにくいが、高濃度の場合や時間をかけば有効な場合がある、×：無効

ページ	正	誤
p.132 右↓20	benzalkonium Chloride (オスバン [®] , ザルコニン [®]), およびベンゼトニウム塩化物 benzethonium Chloride (ハイアミン [®])は	benzalkonium Chloride (オスバン [®]), およびベンゼトニウム塩化物 benzethonium Chloride(ザルコニン [®])は
p.154 左↑5 行	自己免疫疾患(II型アレルギー)	自己免疫疾患(III型アレルギー)
p.154 左↑1 行	に沈着するためと考えられる(自己免疫疾患III型アレルギー)。	に沈着するためと考えられる。
p.379 右↓2 行	再燃率	再燃率
p.382 左↓4 行	有鉤囊虫症	有効囊虫症

薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学 第4版 訂正表

(平成30年3月31日1刷発行分)

p.176 左欄↓1~30 回腸炎ビブリオを下記に改める。

[2] 腸炎ビブリオ *Vibrio parahaemolyticus*

昭和25年10月大阪で発生したシラス食中毒事件を契機に、藤野恒三郎博士らによって日本で最初に発見された。腸炎ビブリオは海洋性細菌であり、生育に数%程度の食塩を必要とする**低度好塩菌 halophilic bacteria**である。液体培地では極単毛性の鞭毛を、寒天培地などの固形培地に移すと周毛性の鞭毛を発現する。白糖非分解性である点で、他のビブリオ属菌と区別される。

1) 腸炎ビブリオ食中毒

菌に汚染された魚介類を経口摂取することで起こる。日本では生の海産物を食する習慣があるので、かつては腸炎ビブリオによる**感染型食中毒**の発生件数が比較的多かったが、食品衛生的な管理体制が向上したこともあり、近年では減少傾向にある。腸炎ビブリオ食中毒の発症には約 10^6 個以上の菌数の摂取が必要であるため、菌が増殖しやすい夏～初秋にかけて食中毒が発生しやすい。ほとんどの症例において、発熱や腹痛を伴った水様性下痢または粘血下痢を主徴とする急性胃腸炎を呈する。

【病原因子】

食中毒を起こすほとんどの菌は、ヒトまたはウサギ赤血球を含む血液寒天培地上に溶血環を形成する。これを**神奈川現象(Kanagawa phenomenon; KP)**という。溶血の原因是、**耐熱性溶血毒素(Thermo-stable direct hemolysin; TDH)**であり、下痢の要因とされる。しかし、神奈川現象をほとんど示さない菌が原因となって発生する食中毒も近年確認されている。後者は、TDHとは異なる耐熱性溶血毒素関連溶血毒素(Thermo-stable direct hemolysin related hemolysin; TRH)を産生していることが判明した。現時点において、腸炎ビブリオ病原株はTDHとTRHの両方または一方を産生する株とみなされている。

【予防・治療】

基本的に対症療法を行う。止瀉薬は、一般的には用いない方がよいとされている。激しい脱水症状に対しては輸液を行う。化学療法を行う場合には、コレラにおける抗菌治療と同様にテトラサイクリン系薬やニューキノロン系薬などを用いる。